

とみだていーんず NO.9

名古屋市富田図書館
令和2年5月11日発行

みなさん、こんにちは！
富田図書館です。

この“とみだていーんず”は、
ティーンズ（概ね中学生以上の10代の方）向けの広報紙です。

新しく入った本の紹介、図書館で行うイベントの案内などを
載せて、年4回発行します。



図書館員おすすめの本はいかが？



『長浜高校水族館部！』

令丈ヒロ子／著 講談社 2019.3

「水族館部」は、愛媛県長浜高校に実在する部活です。
なんと生徒たちが水族館を運営しているのです！

生物のお世話はもちろん、研究や一般公開向けの準備と、
毎日大奮闘しています！

悩んだり、協力したり、楽しんだり、生徒たちの生き生きと
した毎日を取材し、小説化されました。



『泣いたあとは、新しい靴をはこう。』

10代のどうでもよくない悩みに作家が言葉で向き合ってみた

日本ペンクラブ／編 2019.12

「LINEで嫌味を言われ、クラスでいじめにあっている親友を助けたい。」「フラれた彼女と一緒にの教室にいるのがつらい。」「お金が無いけど成績を上げたい。」

人間関係や心の悩み、家庭の事情など、どうにかしたいけど自分では解決できない悩みは誰もが持っています。10代の子の相談に令丈ヒロ子、森絵都ら44名の作家が言葉をもって向き合います。



新しく入った本



『母さんは料理がへたすぎる』

石睦月／作 ポプラ社 2020.1

調理実習でクラスメイトに「シェフ」と呼ばれるほどの料理の腕前を持つ山田龍一朗は高校一年生。

三年前に主夫をしていた父を事故で亡くしてから、山田家では、仕事が忙しく料理が下手すぎる母の代わりに龍一朗が主夫の役割を引き継いでいた。

家のことに振り回され、恋、進路と悩みながら相談していく少年とその家族の心温まる物語。第一回おいしい文学賞受賞作。

『朔と新』

いとうみく／著 講談社 2020.2

朔と弟の新は一昨年の大晦日、父親の故郷で正月を迎えるために高速バスで仙台に向かう途中、バスの横転事故に巻き込まれた。朔は視力を失い、盲学校での生活を送ることになる。予定より一日遅れでバスに乗ることになったのは、新が母親と衝突したことが原因だった。

中学時代、新は長距離走者として注目を浴びていたが、ランナーとしての未来を自ら閉ざしてしまう。

そんな時、兄の朔が1年ぶりに家へと帰ってきて新に告げる。「伴走者になってもらいたいんだ、オレの」



『みつきの雪』

眞島めいり／作 講談社 2020.1

信州の村に住む小学五年生の少女・満希は、都会からの山村留学生・行人と気の合う友人へとになっていく。二人は同じ高校に進んだが、満希は地元で農家を継ぐことになり、行人は遠くの医大への進学を希望していた。

卒業式前日、中学時代に二人で訪れた村の図書館で、行人は山村留学を選んだ理由を初めて語り始める。

「第21回ちゅうでん児童文学賞」大賞受賞作品。



名古屋市富田図書館ティーンズ広報紙 とみだていーんず NO.9 令和2年5月11日発行

名古屋市富田図書館 《指定管理者》ホームックス株式会社名古屋支店

〒454-0976 名古屋市中川区服部3-601 TEL 052-432-5313 FAX 052-432-5314

※開館状況につきましては、名古屋市図書館HPをご覧ください。

名古屋市図書館HP <http://www.library.city.nagoya.jp>

この広報紙は古紙パルプを含む再生紙を使用しています。